



認知症になっても

住み慣れた地域で

市内に住む高齢者Aさんのお話です。Aさんは、住み慣れた自宅で一人暮らしをしています。最近認知症が進み曜日の感覚がはっきりしません。

ある日、近所のBさんが、回収日間違えてゴミを出しているAさんを見つけて、声をかけました。「今日はゴミの回収日じゃないですよ。前も回収日じゃない日にゴミが出ていたけど、Aさんだったんですね。困るわ。本当に。」その数日後、またAさんが、回収日でない日にゴミを出していたため、BさんはAさんにきつく注意しました。このやりとりが繰り返されるたびにAさんは悲しい気持ちになり、そのうち、ゴミ出しをやめてしまいました。やがて、Aさん宅はゴミでいっぱいになり、住み慣れた自宅での生活を諦め、施設に入所となりました。

Bさんは、地域のためにAさんに注意してくれました。しかし、Aさんは認知症のため、何度も同じ間違いを繰り返していました。

認知症になると、日にちや曜日、季節が分からなくなる症状が多くの方に現れます。誰かが、Aさんにゴミ出しの日に声をかけて、少しの手助けをしていたら、Aさんも回収日を間違わずにゴミを出すことができ、自宅での生活が続けられていたかもしれません。

認知症になると、全て分からなくなってしまう訳ではありません。ゴミをためこんでしまうなど一見不可解な行動にも、必ず理由があります。

身近に物忘れで困っている方がいたら、「どうしましたか」と優しく声をかけてください。そして、できる範囲で助けの手を差し伸べてください。それが、誰もが住み慣れた場所で、安心して暮らせる地域づくりにつながります。

認知症地域支援推進員

認知症になっても、安心して暮らせるまちとなるよう、認知症への理解を深めていただくための講座を行なっています。推進員は市内各地域包括支援センターで活動しています。認知症について知りたい方は、地域包括支援センターにご連絡ください。

平成に見出された 小さな謎について

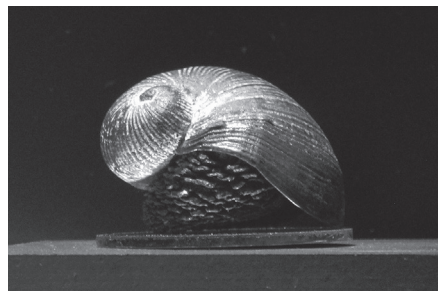
平成最後の年末年始、平成最後の大掃除、平成最後のおせち。この「平成最後の」という枕詞がついているだけで、普段の営みがちよっぴり特別に思えてくるから不思議です。

現在開催中の企画展「神秘の深海世界」では、平成生まれ？のニユーフェイスを紹介しています。平成13年に、深海の熱水噴出孔の周辺で発見されたその生物は通称「スケーリーフット」。金属のウロコを生やし、金属に覆われた殻を持つ、巻貝の仲間です。体内で金属を作り出す生物はとても珍しく、全身黒々と輝くその姿はまさに謎のかたまりです。また姿だけでなく、生態もとっても不思議。体内の食道に、海水中の硫酸からエネルギーを作り出すことができ、細菌を住まわせ、かれらから栄養をもらって生きているのです。

深海の限られた熱水噴出孔でしか発見されていないスケーリーフットは、採集するのも飼育するのもとても難しい生物です。どうやって金属のウロコを作り出すのか、なぜ限られた熱水噴出孔でしか発見されないのか、謎はまだほとんど解明されていません。論文が発表され、正式な学名「クリソ

マロン・スクアミフェラム」がついたのも、たった3年前のことなのです。

地球の表面の7割は海で、そのほとんどは水深200メートルを超えての深海です。平成最後の冬に蒲郡にやってきた、平成の世に発見された謎の生物の標本は、私たちが未だその世界のことをほとんど知らないこと、そこにはきっと他にもたくさん謎が眠っているであろうことを、教えてくれているかのような感じです。



展示中のスケーリーフット (プラスティネーション標本) 小さな巻貝ですが、黒く輝く姿は迫力満点！

生命の海から

館長 山中敦子

生命の海科学館

☎ 66♦1717